

四国森林管理局から二名が発表

第六〇回日本森林学会関西支部等合同大会開催(徳島市)

〈指導普及課〉

第六〇回日本森林学会関西支部、日本森林技術協会関西・四国支部連合会合同大会が、一〇月一六日、一七日の二日間、徳島市(徳島大学工学部外)で開催されました。

一日目は、徳島県立博物館の長谷川専門学芸員から、「四国遍路の歴史―遍路文化のあゆみをたどって―」と題した特別講演があり、遍路文化の世界遺産への提案に対する課題として、四国遍路の成立の背景の複雑さを取り上げ講演されました。(四国遍路の始まりについては、史料が殆どなく、確かなことはわかっていないとのこと)

二日目は、経営・林政や造



秋山所長

林など九部門での研究発表が行われました。四国森林管理局からは、四万十川森林環境保全ふれあいセンターの秋山所長が、「教科書補完プログラム」の作成(教科書とリンクした森林環境教育プログラム)を、また、森林技術センターの鷹野森林技術専門官が、「ツリープロテクターを使用した低コスト造林の検討について」の発表を行いました。

こうした技術開発等の成果については、国民視点に立った業務の実行等の観点から、本大会をはじめ、今後も積極的な情報発信に努めていくこととしています。



鷹野森林技術専門官

職員が一日先生に高知市立愛宕中学校で

〈指導普及課〉

一〇月二三日、高知市立愛宕中学校において、「地域の良さを知る道徳授業」が開催されました。

これは、生徒に、自分たちの住んでいる地域の良さを知ってもらうことを目的に企画されたもので、地域医療や地域貢献、環境保全などに精通している医師や保護司など八名が講師となつて、学年別に授業を行ったものです。

このうち、中学校から要請があった二年生の二クラス(七三名)を対象に、指導普及課職員が「森とのつながり」と題して授業を行いました。生徒は、最初は堅い表情でしたが、職員から生徒たちに「校庭の木の名前を教えてください」と、逆に質問をしたところ、とまどいながらも友達と相談しながら答え、後半はリラックスしていました。

授業終了後に、教職員と講師、保護者などで反省会を行いました。教職員からは、地域に在住している身近な講師から、生徒が



授業の様子

様々な分野の話を聴くことの意義や大切さなどが話されました。講師からは、生徒たちの聴く態度の良さや質問の内容などが話されました。保護者からは、学校、地域が一体となった取組が今後とも継続されるようにとの要望が述べられました。

今後とも、地域への貢献に資するとともに、森林環境教育の推進を図るため、今回のような学校からの要請に積極的に協力していく考えです。

各地の

たより



今年も「林業

(下草刈り)体験

〈ふれあいセンター〉

九月二七日、四万十町の古屋山国有林において、ボランティアによる「林業(下草刈り)体験」を実施しました。今年は、地元の昭和中学校と四万十高校からも先生・生徒一四名、地域の住民など合計二十七名の参加がありました。

現地は、平成一六年度に大道マツ自然再生事業試験地(約一二〇〇坪)を設定していますが、発芽成長した幼齢のマツを守り育てるため、毎年ボランティアを募って下草刈りを実施してき



下草刈りの様子



森林教室の様子

一〇月二一日、松野町立松野西小学校四年生二一名を対象に、今年度第五回目の森林教室を実施しました。

一学期には校庭の樹木を学習済みですが、今回は、地元の滑床渓谷を訪れ、校庭にはない樹木、滑床山周辺で見かける樹木など約二〇本を学習しました。

「ドングリ見つけ！」
滑床渓谷で樹木学習
〈ふれあいセンター〉

ました。現在、一番成長しているマツは約二mに達しています。

作業は、中高生が地域の方々の間に入り、指導を受けながら進めた結果、予定通り終了することができ、先生からは「生徒達は貴重な林業体験となった」との感想を頂きました。

遊歩道を進みながら職員が一本ずつ樹木名の由来や葉の特徴などを説明すると、熱心にワークシートに書き留め、途中で聞き漏らしたりすると、「もう一度！」と意欲的に取り組んでいました。さらに、この時期の滑床渓谷には、森からの贈り物のドングリがいっぱいです。学習の合間には大喜びで拾っていました。

学校に帰ってからは、種子の学習をしました。

始めに、滑床渓谷で見つけた種子の絵を描いたり、思い思いの名前を付けました。その後、顕微鏡で実物の種子を観察したり、樹木がさまざまな工夫をして種子を移動させることなどを説明すると、「風で飛ぶだけではないことが分かって、ビックリした」との感想があり、種子への関心が高まったようです。

最後に、ラワンの種子模型を作って飛ばす体験をして、この日の森林教室を終了しました。

「根上がり大将」と対面
〈ふれあいセンター〉

当センターは、例年、四万十市立後川中学校の森林環境教育を支援しています。一〇月二二日、森林散策と樹木学習を目的



根上がり大将の前で（後川中）

に、四万十町の市ノ又渓谷風景林をフィールドに実施しました。

登山口に集合した全校生徒二七名は三班に別れて出発、職員から日本固有種のスギやヒノキ、間伐の説明を聞きながら進みました。二〇分程歩くと、ヒノキの巨木「根上がり大将」に到着し、友達同士で手をつないで胸高周囲約六〇〇cmを体感しました。その後も遊歩道沿いの広葉樹を中心に、葉の特徴や用途、分布などを学習しながら一時間三〇分の「ゆったり森林浴コース」を終了しました。

下山後、生徒代表から、「色々な樹木の説明を聞くことができ、勉強になりました」とお礼の言葉がありました。

今回は、モミ・ツガ群落を訪れる「巨木探索コース」にチャレンジしてほしいものです。

ウッドフェスティバルに参加
〈香川森林管理事務所〉

一〇月三日、四日の両日、サンメッセ香川で二〇〇九ウッドフェスティバルが開催されました。このイベントは、木材の利用促進を目指して行われるもので、当所も毎年参加しています。屋内会場には、香川県産ヒノキの原木や製品が展示され、屋外には県内外の木材関係業者や県などからさまざまな木製品の販売や展示のテントが立ち並び、二日間多くの来場者でにぎわいました。

当所は「森の恵みにふれて」というテーマのもと、つるかご編み教室と香川県内の国有林を紹介するパネル展示を行いました。

つるかご編み教室は職員が講師となり、子供から大人まで約五〇人が参加しました。つる植物は林業にとっては邪魔者扱いされますが、使い次第でおよしやれなかができます。かごに使うつるは太さや長さ、色合いが様々なので、参加者はそれらを上手に組み合わせながら、かごを作成しています。毎年人気があり、参加者の中には



つるかご編み

「去年参加してよかったので今年も来ました」という人もいました。個人差はありますが、難しいところや失敗した場合は職員に助けられながら、一時間〜一時間半ほどでかごを完成させていました。

つるかご編み教室を実施したテント横には、香川県内の国有林を紹介するパネル展示を行いました。香川県には飯野山（讃岐富士）や屋島など、有名な観光地にも国有林がありますが、国有林であることはあまり知られていないので一般の方にPRするよい機会になりました。

つるかご編み教室の際、アンケートを実施しましたが、回答者の半数以上が香川森林管理事務所を「知らない」と回答しており、まだまだ知名度が低い

こと、所のPRが不十分であることを痛感しました。今後もっと香川所のPRに取り組んでいく必要があると感じました。

最後に、つるかご編み参加者に協力していただいた「緑の募金」を管理団体の「かがわ水と緑の財団」に手渡し、イベントを終了しました。



緑の募金贈呈

遊々の森で森林教室

〈香川森林管理事務所〉

一〇月二三日、屋島国有林内に設置した「遊々の森」で、屋島東小学校三・四年生、五三名を対象として森林教室を行いました。

当日は天気にも恵まれ、絶好の森林教室日和となりました。屋島国有林は、ちょうどどんぐりが落ちる季節に入り、児童た

ちは遊々の森への道すがら、たくさんのだんぐりを拾っていました。

森林教室では、まず常緑広葉樹と落葉広葉樹の葉を比較しました。実際に常緑広葉樹と落葉広葉樹の葉に触って、厚さや色、手触りなどの違いを体験しました。また、落ちた葉が小さな動物の住処になったり、分解して養分になったりすること

を学習しました。

次に、屋島でとれる五種類のどんぐりについて、違いを比較しました。一口にどんぐりといってもその形は樹の種類によって様々で、それぞれ特徴があります。丸くて大きなクヌギや細長いコナラのどんぐりを見ながら、「これ何のどんぐり？」と口々に質問していました。



出来上がった基地で



遊々の森で森林教室

森林教室のあとはお待ちかねの基地づくりと遊具遊びの時間です。あらかじめ森林管理事務所の職員が組んでおいた骨組みに、次々にヒノキの枝葉をかぶせたり、引っかけたりして二〇分ほどで三つの基地が完成しました。

基地が完成したあとは、めいめいが作った基地を改良したり、遊々の森に設置されているブランコやハンモックで遊んだりしました。中には遊々の森で拾ったどんぐりの種類を尋ねる児童や、病気で参加できなかった友達へのおみやげを探している児童もいました。

屋島はこれから紅葉の季節に入りますが、遊々の森での経験が、身近な自然の変化を感じ取るきっかけになってくれたら、と思います。

地域子ども交流会で木の動物づくり

〈高知中部森林管理署〉

九月二六日、県立香北青少年の家に地域子ども交流会が開催されました。この催しは香美市・香南市・南国市の小学三年生から六年生までを対象とし、自然体験を通じて自分たちの地域の持つすばらしさを知ることが目的として毎年行われています。

当署はプログラムの中で、森林についてのお話と木工ラフトづくりを担当しました。

まず、絵や写真を見ながら森林の持つ公益的機能について話をし、その後、サクラやミズメの枝を使ってタヌキの置物づく



木工ラフト

りに挑戦しました。三年生には刃物の使用は難しいのではないかと心配しておりましたが、スタッフの丁寧な指導のもと、怪我もなく思い思いの姿のタヌキを作り終えることができました。最後にドングリなどの木の実にタヌキを飾り付けると、秋らしいすばらしい作品ができあがり、みんな満足した様子でした。

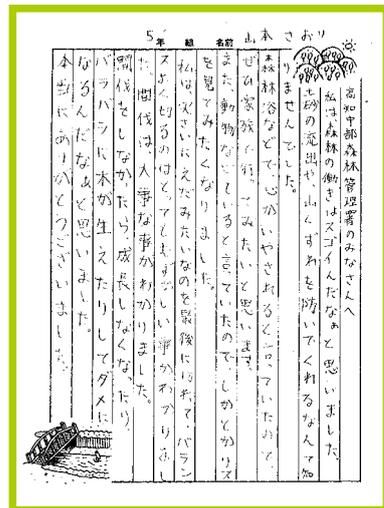
間伐の大切さを学習

〈高知中部署〉

一〇月五日、香美市立大宮小学校五年生三二名を対象に森林教室を行いました。

教室の前半では、森林の働きや間伐することの重要性について絵や写真を見ながら話をしました。

後半はこの話をふまえて実験を行いました。発泡スチロール板に差し込んだスギの枝を間伐しようとする山の植栽木にみたくて、実際に子どもたちなどの木を間伐するのがいいのか選んでみてもらいました。また、間伐などの手入れが行き届き、下層植生が育っている森林モデルの土壌と、間伐が遅れている森林モデルの土壌とで土砂の流出量を比較する実験



では、子どもたちは流れ出る土の量の差に驚いていました。森林教室後に感想文をいただくなど、森林率八七%を誇る香美市の子どもたちにとって、森林がより身近なものとなり、興味を持ってもらえたことを実感しています。

みんなの力で三嶺山系の貴重な自然林を守ろう

〈高知中部森林管理署〉

一〇月四日、当署と「三嶺の森をまもるみんなの会」の主催により、三嶺山系においてシカの食害から森林を守るための作業が行われました。

今回で九回目となるこの作業には、物部川流域の住民の方々を中心に総勢百三〇名の参加がありました。当日は、三嶺の貴重な植物の

再生を図るためにネットの柵を張る作業と、登山道周辺のモミの木などをシカの食害から守るため一本一本の木にネットを巻き付ける作業を合計六箇所に分かれて行いました。参加者はまず、柵を張るために必要

な資材を持ち片道一時間三〇分かけて山道を登って行かねばならず、苦勞していました。しかし、秋晴れのもと、三嶺の頂上を眺めながらの作業は、山の清々しい風を受けて、とても気持ち良いものでした。貴重な植物の再生を願い、また、一本でも多くの木をシカの食害から守ろうと、皆さん手際よく作業を進めていました。

標高の高い所での作業であ



シカに食べられないようネットを巻く

り、今回初めて参加した方からは、「急な山道を資材を持って登るのは大変だったけれど、次回もぜひ参加したい」との感想を聞くことができました。今回の作業により、すでに設けたものも合わせて柵が三〇箇所（牧野植物園設置の四箇所含む）設置され、ネットを巻き付けた樹木は三、一五〇本余りになりました。

今後、シカの食害から森を守る作業は引き続き行っていく予定です。皆さんも、森を守る仕事をしてみませんか。三嶺に一度いつてみたいと考えている方も、ぜひ参加してください。

協働の森づくり事業のイベントに協力

〈高知中部森林管理署〉

一〇月三日、香美市香北町で「ルネサス フォレストランド二〇〇九」が開催されました。今年で三回目となるこの催しは、香南市にあるルネサステクノロジー高知事業所と高知県が協働の森・パートナーズ協定を締結し、森林の再生と地域との交流を目的として行われています。

当日は好天に恵まれたものの、連日の雨で足元が悪かったため、行事は会場を屋内に変更



木の葉当てクイズ

して行われました。

当署は、木の葉当てクイズと木工クラフト作成コーナーを担当しました。木の葉当てクイズでは、スギやマツなど一般の方にもなじみのある樹種をはじめとして一七種類の木の枝を準備しておき、参加者にそれぞれの名前を回答用紙に記入していただきました。参加者たちは首をかしげながらもヒントを頼りに次々に回答欄を埋めていき、森林をつくる木々の種の多様性を感じ取っていただけました。成コーナーでは子どもも楽しめるように、当署手作りのウサギの置物付き写真立てキットを準備していききました。これには「手がこんでますね」「来年の夏休みの宿題の参考にします」などの感想をいただきました。

他にも丸太切り競争や、子ども向けに紙芝居などのプログラムもあり大盛況のうちにイベントを終えました。

参加することの意義を実感 六四回本山町職域体育大会

〈嶺北森林管理署〉

本山町職域体育大会が一〇月一八日に開催され、当署も、四国局や他署からの応援を得てどうにか人数を集め今年も参加しました。

今年の大会は、昨年の一チームから一三チームとなり、おおいに盛り上がった大会となりましたが、我が森林管理署チームは最下位と残念な結果となってしまうました。アイスクリームの早食い競争では、涙をながしながらも食ら



アイスクリーム早食い競争

いついた人や、リレーで追い抜かれ悔しさをにじませていた人などそれぞれ一生懸命にやっていたが、層の薄さは何ともしがたく、最下位の競技が続く結果となってしまいました。

その鬱憤をはらしたのが、綱引きで、なんと一六秒の秒殺で相手を粉砕してしまいました。我がチームの誇らしげな雰囲気と相手チームの「あ然」とした姿は印象的でした。

今年の大会ほど、「参加することに意義がある」を実感したことはありませんでした。各職場を回って参加を呼びかける「町長の熱意」。参加しようよと職員一人ひとりに声をかける「署長の粘り」。これらに意気を感じて動いた「治山課長の行動力」。こうした人たちがいるから六四回も続いているんだと感じました。

そして、最後の反省会で、「こうした催しに参加し、地元で森林管理署の名前を印象づけることは大事ですね。また呼んで下さい」と言ってくれた他署から参加した若者。

快晴の秋空のもと汗をかいた爽快感とともに、心をあたたくしてくれた若者の言葉に感謝しながら、職域体育大会に参加した嶺北森林管理署の一日は終わっていききました。

シリーズ 3 よついでと愛媛森林管理署へ



シャクナゲ

愛媛県立自然公園皿ヶ嶺連峰の西の端に位置する山が、当署（松山市朝美）から南西に車で四〇分の伊予市「谷上山（四五五・五m）」です。

この麓に造られた全国屈指の人造湖「大谷池」の水は、西日本最高峰「石鎚山（一、九八二m）」の麓、面河ダムから導水管で運ばれ、伊予市・伊予郡松前町に広がる約一、〇〇〇haに及ぶ農地を潤しています。

また、この一帯の国有林は大谷池風景林に指定され、一



大谷池より松山平野 秋

部は「えひめ森林公園」として愛媛県により整備されており、年間を通して里山歩きを楽しむ人々で賑わっています。

次に紹介するのは、皿ヶ嶺連峰の東の端、連峰最高峰の東温市「石墨山（一、四五六m）」です。松山市から東に、車で一時間三〇分で登山口の唐岬ノ滝入口に着きます。

この石墨山から西へ稜線を進む皿ヶ嶺（上林峠）までの登山道（約一〇km、八時間）



東温アルプス登山道

は、近年「東温アルプス」と称し、東温市の登山愛好家「さくら山行会」の方々によるボランティアで、登山道の刈払いや看板設置等の整備がされており快適に歩くことが出来ます。

また、登山道の周囲はブナやモミ・ツガなどの天然林も多く、シャクナゲの花や木々の合間から瀬戸内の景色が望めるとあって、県内外から多くの登山客が訪れています。

石墨山から稜線を東に進めば、石鎚山につながります。

これらの山々は松山平野の南を額縁のように堅め、山に行かずして暮らす人々にも目に優しく、春夏秋冬森の恵を



梅ヶ谷山より石墨山後方石鎚山

静かに提供しています。

現在、東温アルプスと称されている登山道は、皿ヶ嶺の西の麓にある松山市浄瑠璃町から石鎚山への山岳信仰の修行の道として、多くの修験者が行き来をしていた歴史ある古道です。

修験道の根本道場として栄えた四国霊場第四七番札所「八坂寺」では、明治時代まで一〇〇名もの修験者を連れて修行を行っていました。

今では、山岳信仰としての利用はありませんが、千年を越える年月をかけて人々が踏み固めた土は、今もなお道型を残し、新たな登山者の道先案内をしています。